

地質調査所の 各部課を尋ねて

— 1 —

まえがき

本年4月で地質ニュースは創刊7周年を迎えましたがこの間 地質調査所の機構や各部課の業務内容についての記事がなく 読者各位のご希望もありますので 本月から「各部課を尋ねて」の欄を設け 仕事の内容について簡単に述べてみましょう。

1. 地質調査所の生い立ち

わが国で初めて行われた地質調査は 文久2年(1862) 蝦夷奉行がアメリカ人 W. P. Blake, R. Pumpelly, Gaal 等を招へいして実施した 北海道渡島・後志の鉱床調査である。

次いで明治5年(1872) 北海道開拓使がアメリカ人 Benjamin Smith Lyman を招き 炭田調査を実施してわが国最初の地質図として 200 万分の1「日本蝦夷地質要略の図」(1876)を発行した。

こえて明治7年(1874)内務省地理寮に木石課を置き 木石陳列所を開設したのが わが国の地質調査事業が政府の手で始められた最初である。

明治10年(1877)東京大学の和田維四郎およびドイツ人 Edmund Naumann が地質調査所の設立につき政府に建議したが これが採用されて翌11年(1878)内務省

地理寮が地理局と改称されると同時に 地質課が設置された。

明治15年(1882)地質課が廃止され 農商務省内に地質調査所が創立され 和田維四郎が 初代所長に任命された。

当時の処務規定によれば

「地質調査所ハ 地下埋蔵ノ天産物ヲ探リ 殖産ノ富源ヲ究メ 産業改進ノ方法ヲ考按シ 其適用ヲ指示スル所ナリ」

地 質 係

地質ヲ調査シ 地質図ヲ調製シ 鉱産物ノ所在多寡並ニ良否ヲ査定ス

土 質 係

土壌鉱肥等ヲ調査シテ土性図ヲ調製シ 土質ト植物トノ反応関係ヲ精査ス

分 析 係

産業ノ材料ヲ試験若クハ分析シテ改進ノ針路ヲ示シ 又特ニ起業ノ方法ヲ按ス

地 形 係

地形ヲ測量シ 山川ノ位置高低ヲ実測シテ 地形図ヲ調製シ 殖産材料ノ所在並ニ運搬ノ便否ヲ考案スルノ用ニ供ス

庶 務 係

所中公文ノ受付 所員ノ進退及ヒ他係ノ主管ニ属セサル事務ヲ掌理ス

とあり 当時の予算は 58,831 円で全所員 47 名であつた。



地質調査所ネームプレート



溝ノ口本所正面玄関

その後 わが国の進展に伴い ある時は拡張されまたある時期には縮少され また貴重な資料類が炎禍をこうむるなど 78年にわたり幾多の辛酸を経て 今日の地質調査所に生長してきた。

2. どんな仕事をしてきたか

創立以来 今日までの仕事のおもなものについて 記してみると

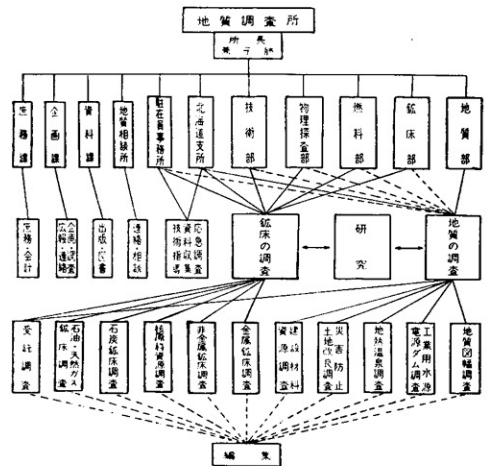
- 明治15年 (1882) 地質調査所創立
- 明治18年 (1885) わが国最初の20万分の1地質図幅「伊豆」を発行
- 明治31年 (1898) 100万分の1大日本帝国地質全図を発行
- 明治43年 (1910) 200万分の1大日本帝国地質図を発行
- 大正4年 (1915) 40万分の1地質図 東北部・中部・西部・西南部の5図完成
- 大正6年 (1917) 7万5千分の1地質図幅の調査開始
- 大正8年 (1919) 20万分の1地質図幅98図幅完成
- 昭和7年 (1932) 創立50周年を記念して日本地質鉱産誌の発行に着手す
- 昭和24年 (1949) 5万分の1地質図幅 (日本全国で1,263枚) の調査開始
- 昭和25年 (1950) 50万分の1地質図幅17図幅の編さんに着手
- 昭和28年 (1953) 300万分の1日本地質図を発行
- 昭和31年 (1956) 200万分の1日本地質図を発行

以上の外 土性図・油田図・炭田図・鉱床図などの作成や 各種地下資源の調査研究・物理探査法の研究・地球化学的研究なども行ってきたが 最近では地熱の開発利用・電源ダム・工業用水の調査研究および 天然ガスの調査研究とガス地下貯蔵の研究 核原料資源・大陸棚の資源調査研究や 未利用資源の開発利用方面にも力を入れ また 地盤沈下や地すべりなど 国土保全の問題についても調査研究を行っている。

3. 機 構

地質調査所の機構は 本所に 地質・鉱床・燃料・物理探査・技術の5部と資料・企画・庶務の3課 および地質相談所が設けられており 札幌には北海道支所を仙台・名古屋・大阪・広島・高松・福岡にはそれぞれ駐在員事務所を置いている。

次に機構図を示す。



4. サービス業務

(1) 地質の相談

地質調査所の窓口として 地質相談所が設けられ一般の方々からの地質や地下資源についての各種相談や技術の指導に依じている。

(2) 受託調査

地質図の作成・工業用水・温泉・地盤沈下・地すべり・金属や非金属鉱床・石炭・石油・天然ガスなどについて受託調査制度を設け 広く一般の求めに応じて職員の出張調査を実施している。

(3) 依頼試験と分析

岩石・鉱物・石炭・天然ガス・地下水などの分析や鑑定に依じている。

(4) 標本の陳列

岩石・鉱物・化石などの各種標本数千点が陳列され 一般に公開 小中高校生は勿論一般の方々への地学研究資料として活用されている。

(5) 出版物

地質調査所が実施した各種調査研究の成果はつぎつぎに出版公表され 各方面に利用されている。そのおもものをあげると

- 地質図幅および説明書 (不定期)
- 地質調査所報告 (不定期)
- 地質調査所月報 (月刊)
- 日本鉱産誌 (不定期)
- 日本炭田図 (不定期)
- 特殊図 (不定期)
- 地質ニュース (調査所の活動・地学の普及啓蒙等の P.R. 誌月刊)

以上 地質調査所の概況を述べたが 次号から各部課を尋ね その業務内容をお知らせすることとしよう。

(企画課)